

# 数学演習第一 (演習第 10 回)

## 線形：4 次以上の行列式

2023 年 7 月 12 日

### 【要点】

演習第 8 回で 2 次, 3 次の行列式を公式に従って計算した. 今回は 4 次以上の行列式の計算法を学習する. まず, 行列式を定義する準備として, 次の記号を用意する.

〈 $A_{ij}$  の定義〉 (線形教科書 p.80)

$n$  次正方行列  $A$  の第  $i$  行と第  $j$  列を取り除いて得られる  $n-1$  次正方行列を  $A_{ij}$  と記す.

◎ 例えば  $A = \begin{bmatrix} 1 & 3 & 2 \\ 2 & 3 & 2 \\ 1 & 3 & 5 \end{bmatrix}$  であるなら  $A_{22} = \begin{bmatrix} 1 & 2 \\ 1 & 5 \end{bmatrix}$

これを用いて  $n$  次の行列式を  $n$  に関して帰納的に定義する.

〈行列式の定義〉 (線形教科書 p.65)

$1 \times 1$  行列  $A = [a]$  に対して  $|A| = a$  とする.  $n-1$  次正方行列に対して行列式が定義できたとするとき,  $n$  次正方行列  $A = [a_{ij}]$  の行列式  $|A|$  を次で定義する.

$$|A| = (-1)^{1+1}a_{11}|A_{11}| + (-1)^{2+1}a_{21}|A_{21}| + \cdots + (-1)^{n+1}a_{n1}|A_{n1}|$$

定義を直接適用して行列式を計算すると, 例えば  $A$  が 4 次の行列式だと右辺に 3 次の行列式が 4 つ出てきて計算が複雑になる. そのため, 次の定理を用いて計算することが多い.

〈行列式と行基本変形との関係〉 (線形教科書 p.68)

$n$  次正方行列  $A$  の行ベクトル分割を  $A = \begin{bmatrix} \mathbf{a}_1 \\ \vdots \\ \mathbf{a}_n \end{bmatrix}$  とするとき行列式  $|A|$  は次を満たす.

(1) ある  $i$  について  $\mathbf{a}_i = c\mathbf{b}_i$  ならば,

$$|A| = \begin{vmatrix} \vdots & & \vdots \\ c\mathbf{b}_i & & \mathbf{b}_i \\ \vdots & & \vdots \end{vmatrix} = c \begin{vmatrix} \vdots & & \vdots \\ \mathbf{b}_i & & \mathbf{b}_i \\ \vdots & & \vdots \end{vmatrix}$$

(2) 2 つの行  $\mathbf{a}_i$  と  $\mathbf{a}_j$  を入れ換えると, 行列式は  $-1$  倍される:

$$|A| = \begin{vmatrix} \vdots & & \vdots \\ \mathbf{a}_i & & \mathbf{a}_j \\ \vdots & & \vdots \\ \mathbf{a}_j & & \mathbf{a}_i \\ \vdots & & \vdots \end{vmatrix} = - \begin{vmatrix} \vdots & & \vdots \\ \vdots & & \vdots \\ \mathbf{a}_j & & \mathbf{a}_i \\ \mathbf{a}_i & & \mathbf{a}_j \\ \vdots & & \vdots \end{vmatrix}$$

(3)  $i \neq j$  のとき,  $\mathbf{a}_j$  に  $\mathbf{a}_i$  の  $c$  倍を加えても行列式は変わらない:

$$|A| = \begin{vmatrix} \vdots & & \vdots \\ \mathbf{a}_i & & \mathbf{a}_i \\ \vdots & & \vdots \\ \mathbf{a}_j & & \mathbf{a}_j + c\mathbf{a}_i \\ \vdots & & \vdots \end{vmatrix} = \begin{vmatrix} \vdots & & \vdots \\ \mathbf{a}_i & & \mathbf{a}_i \\ \vdots & & \vdots \\ \mathbf{a}_j & & \mathbf{a}_j \\ \vdots & & \vdots \end{vmatrix}$$

◎ 例えば  $\begin{vmatrix} 1 & 2 & 2 & 1 \\ 2 & 3 & 3 & 1 \\ 2 & 1 & 2 & 1 \\ 4 & 3 & 2 & 2 \end{vmatrix}$  の行列式は次のように計算できる.

$$\begin{aligned} \begin{vmatrix} 1 & 2 & 2 & 1 \\ 2 & 3 & 3 & 1 \\ 2 & 1 & 2 & 1 \\ 4 & 3 & 2 & 2 \end{vmatrix} &= \begin{vmatrix} 1 & 2 & 2 & 1 \\ 0 & -1 & -1 & -1 \\ 0 & -3 & -2 & -1 \\ 0 & -5 & -6 & -2 \end{vmatrix} = \begin{vmatrix} -1 & -1 & -1 \\ -3 & -2 & -1 \\ -5 & -6 & -2 \end{vmatrix} = - \begin{vmatrix} 1 & 1 & 1 \\ -3 & -2 & -1 \\ -5 & -6 & -2 \end{vmatrix} \\ &= - \begin{vmatrix} 1 & 1 & 1 \\ 0 & 1 & 2 \\ 0 & -1 & 3 \end{vmatrix} = - \begin{vmatrix} 1 & 2 \\ -1 & 3 \end{vmatrix} = -5. \end{aligned}$$

これ以外の行列式に関する主要な定理を挙げる.

〈行列式に関する定理〉  $A, B$  は  $n$  次正方行列とする. このとき次が成立する.

- (1)  $A$  が正則  $\Leftrightarrow |A| \neq 0$ .
- (2)  $|AB| = |A||B|$ . 特に,  $A$  が正則行列のとき  $|A^{-1}| = \frac{1}{|A|}$ .
- (3)  $|{}^tA| = |A|$ .

(3) の性質のおかげで, 行列式と行基本変形との関係は列基本変形に対しても成立する.

$A$  の余因子行列についても述べておく.

〈余因子の定義〉 (線形教科書 p.81)

$n$  次正方行列  $A$  に対し  $(-1)^{i+j}|A_{ij}|$  を  $A$  の  $(i, j)$  余因子 という.

◎ 例えば  $A = \begin{bmatrix} 1 & 3 & 2 \\ 2 & 3 & 2 \\ 1 & 3 & 5 \end{bmatrix}$  であるなら  $A_{22} = \begin{bmatrix} 1 & 2 \\ 1 & 5 \end{bmatrix}$  であるので  $(2, 2)$  余因子は  $(-1)^{2+2}|A_{22}| = 3$ .

〈余因子展開〉 (線形教科書 p.81)

余因子を用いて行列式を“展開”することができる.

$$\begin{aligned} |A| &= (-1)^{1+j}a_{1j}|A_{1j}| + (-1)^{2+j}a_{2j}|A_{2j}| + \cdots + (-1)^{n+j}a_{nj}|A_{nj}| \quad (\text{第 } j \text{ 列に関する余因子展開}) \\ &= (-1)^{i+1}a_{i1}|A_{i1}| + (-1)^{i+2}a_{i2}|A_{i2}| + \cdots + (-1)^{i+n}a_{in}|A_{in}| \quad (\text{第 } i \text{ 行に関する余因子展開}). \end{aligned}$$

第 1 列に関する余因子展開は上述の行列式の定義の中に現れる.

〈余因子行列の定義〉 (線形教科書 p.83)

$n$  次正方行列  $A = [a_{ij}]$  に対し,  $(i, j)$  成分が  $(j, i)$  余因子であるような  $n$  次正方行列を  $A$  の余因子行列といい  $\tilde{A}$  で表す. したがって  $\tilde{A}$  の  $(i, j)$  成分は  $(-1)^{j+i}|A_{ji}|$  である.

◎ 例えば  $A = \begin{bmatrix} a_{11} & a_{12} & a_{13} \\ a_{21} & a_{22} & a_{23} \\ a_{31} & a_{32} & a_{33} \end{bmatrix}$  に対しては  $\tilde{A} = \begin{bmatrix} |A_{11}| & -|A_{21}| & |A_{31}| \\ -|A_{12}| & |A_{22}| & -|A_{32}| \\ |A_{13}| & -|A_{23}| & |A_{33}| \end{bmatrix}$

〈余因子行列の性質〉 (線形教科書 p.83)

$A\tilde{A} = \tilde{A}A = |A|E$ . 特に,  $|A| \neq 0$  ならば,  $A^{-1} = \frac{1}{|A|}\tilde{A}$ .

# 1 演習問題

1 次の行列式の値を求めよ。(1)は演習書問題 9.3.2 (3); (2), (3), (4)は演習書問題 9.3.3

【注】線形教科書例題 10.7 が基本. 線形教科書 p.77 にある列基本変形も有効.

$$(1) \begin{vmatrix} 0 & 1 & 2 & 3 \\ 1 & 2 & 3 & 0 \\ 2 & 3 & 0 & 1 \\ 3 & 0 & 1 & 2 \end{vmatrix} \quad (2) \begin{vmatrix} 1 & 2 & 3 & 4 \\ 12 & 13 & 14 & 5 \\ 11 & 16 & 15 & 6 \\ 10 & 9 & 8 & 7 \end{vmatrix} \quad (3) \begin{vmatrix} 2 & 8 & 4 & 1 \\ 7 & 6 & 7 & 1 \\ 2 & 4 & 4 & 0 \\ 1 & 2 & 5 & 1 \end{vmatrix} \quad (4) \begin{vmatrix} 2 & -1 & 3 & -2 \\ 1 & 7 & 1 & -1 \\ 3 & 5 & -5 & 3 \\ 4 & -3 & 2 & -1 \end{vmatrix}$$

$$(5) \begin{vmatrix} 1 & 3 & 0 & 1 & 0 \\ 7 & 0 & 1 & 2 & 7 \\ 1 & 3 & 3 & -2 & 2 \\ 1 & 2 & 5 & -1 & -2 \\ 0 & 1 & -1 & -1 & 3 \end{vmatrix}$$

2  $n$  次正方行列  $A$  の余因子行列を  $\tilde{A}$ ,  $n$  次単位行列を  $E$  とする.

(1)  $|dE|$  ( $d$  はスカラー) を  $d$  を用いて表せ. (2)  $|\tilde{A}|$  を  $|A|$  を用いて表せ.

((2) のヒント: 恒等式  $A\tilde{A} = |A|E$  の両辺の行列式をとって, 左辺には線形教科書定理 11.3, 右辺には (1) を適用.)

3 4 次正方行列  $A$  の行ベクトル分割を  $A = \begin{bmatrix} a \\ b \\ c \\ d \end{bmatrix}$  とし,  $A$  の行列式の値を  $|A| = 2$  とする. このとき,

次の行列式の値を求めよ.

$$(1) \begin{vmatrix} b \\ c \\ d \\ a \end{vmatrix} \quad (2) \begin{vmatrix} b \\ -3a \\ 2c \\ d \end{vmatrix} \quad (3) \begin{vmatrix} 10a \\ a+b \\ a-b \\ c+d \end{vmatrix} \quad (4) \begin{vmatrix} 2a \\ -3b \\ -5a+4c \\ 7b-d \end{vmatrix}$$

4 5 つの 4 次列ベクトル  $a, b, c, d, e$  の間には, 4 次の行列式を用いた関係式

$$|a \ b \ c \ d| = 3, \quad |e \ b \ c \ d| = 9, \quad |a \ e \ c \ d| = 3, \quad |a \ b \ e \ d| = -6, \quad |a \ b \ c \ e| = 6$$

が成り立つという. スカラー  $w, x, y, z, t$  の間に  $wa + xb + yc + zd = te$  という関係があるとき,  $w, x, y, z$  をそれぞれ  $t$  の式で表せ.

5 次の行列式を因数分解した形で求めよ. (この形の行列式を ヴァンデルモンドの行列式 という.)

$$(1) \begin{vmatrix} 1 & 1 & 1 \\ x_1 & x_2 & x_3 \\ x_1^2 & x_2^2 & x_3^2 \end{vmatrix} \quad (2) \begin{vmatrix} 1 & 1 & 1 & 1 \\ x_1 & x_2 & x_3 & x_4 \\ x_1^2 & x_2^2 & x_3^2 & x_4^2 \\ x_1^3 & x_2^3 & x_3^3 & x_4^3 \end{vmatrix}$$

6 (1)  $P_4 = \begin{bmatrix} \cos \theta_1 & -\sin \theta_1 & 0 & 0 \\ \sin \theta_1 \cos \theta_2 & \cos \theta_1 \cos \theta_2 & -\sin \theta_2 & 0 \\ \sin \theta_1 \sin \theta_2 \cos \theta_3 & \cos \theta_1 \sin \theta_2 \cos \theta_3 & \cos \theta_2 \cos \theta_3 & -\sin \theta_3 \\ \sin \theta_1 \sin \theta_2 \sin \theta_3 & \cos \theta_1 \sin \theta_2 \sin \theta_3 & \cos \theta_2 \sin \theta_3 & \cos \theta_3 \end{bmatrix}$  の行列式  $|P_4|$  の値を

求めよ. より一般に,  $n$  次正方行列  $P_n$  ( $n \geq 2$ : 自然数) を,  $P_2 = \begin{bmatrix} \cos \theta_1 & -\sin \theta_1 \\ \sin \theta_1 & \cos \theta_1 \end{bmatrix}$  および

$$P_{n+1} = \begin{bmatrix} P'_n & \mathbf{0} \\ \mathbf{p}_n \cos \theta_n & -\sin \theta_n \\ \mathbf{p}_n \sin \theta_n & \cos \theta_n \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} E_{n-1} & \mathbf{0} & \mathbf{0} \\ \mathbf{0} & \cos \theta_n & -\sin \theta_n \\ \mathbf{0} & \sin \theta_n & \cos \theta_n \end{bmatrix} \begin{bmatrix} P'_n & \mathbf{0} \\ \mathbf{p}_n & 0 \\ \mathbf{0} & 1 \end{bmatrix} \quad (n \geq 2)$$

(ただし  $P_n = \begin{bmatrix} P'_n \\ \mathbf{p}_n \end{bmatrix}$ ,  $\mathbf{p}_n$  は  $P_n$  の第  $n$  行,  $E_{n-1}$  は  $n-1$  次の単位行列) により帰納的に定義するとき, 行列式  $|P_n|$  の値を求めよ.

(2) 演習書問題 9.3.6 (6) を解け.

$$\begin{vmatrix} x^2+1 & x & & & & & O \\ x & x^2+1 & x & & & & \\ & x & x^2+1 & x & & & \\ & & x & \ddots & \ddots & & \\ & & & \ddots & \ddots & x & \\ O & & & & x & x^2+1 & \end{vmatrix} \quad (n \text{ 次}).$$

## 2 レポート問題 (WebClass 提出用)

(1)  $A = \begin{bmatrix} 5 & -1 & 0 & 0 \\ -3 & 2 & -1 & 1 \\ 1 & 1 & -5 & 1 \\ -2 & 0 & 1 & 0 \end{bmatrix}$  とする.  $|A|$  を求めよ.

(2) (1) の  $A$  に対して  $|\tilde{A}|$  を求めよ.

(3) ヴァンデルモンドの行列式を用いて,  $\begin{vmatrix} 3 & 3^2 & 1 & 3^3 \\ 2 & 2^2 & 1 & 2^3 \\ -1 & 1 & 1 & -1 \\ 7 & 7^2 & 1 & 7^3 \end{vmatrix}$  を求めよ.

(4)  $B = \begin{bmatrix} 1 & 1 & 5 \\ 1 & 2 & 1 \\ 0 & 1 & 3 \end{bmatrix}$  とする.  $\tilde{B}$  および  $B^{-1}$  を求めよ.